

## 政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

夢みらい 戸崎 克司

(2) 実施日：2024/7/9(火)

### 【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

特別史跡彦根城跡にカワウ、シラサギが多数生息し  
コロニーが城山に多数つくられている

(2) 本市における課題

特別史跡彦根城跡におけるカワウ・シラサギ対策  
城山周辺的环境被害及び漁業被害

### 【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目：広域によるカワウ・シラサギ対策

(2) 選定地1：環境省

### 【3. 調査結果】

(1) 内 容

- ・特別史跡彦根城跡にはカワウ・シラサギが生息しており、多数のコロニーをつくり、ねぐらとしている。特別史跡かつ琵琶湖国定公園第一種特別地域のため、駆除はできずに追い払いも制限があり、厳しい状況である。彦根城世界遺産登録に関して景観上問題はないのかとの問いに対して、景観上問題があるとの返答であった。
- ・彦根市の担当課の対応としては、昨年末から特にカワウ・シラサギのコロニー(巣)のある城山の木々を剪定した。その後、スターターの音、ホイッスル等で追い払いも実施した。一時的に逃げるが、時間が経過するとともに戻ってくる傾向にあった。特別史跡彦根城跡にて、カワウ・シラサギの駆除は厳しく、効果的な追い払い仕方や戻ってこない対策はないのかとの問いに対して、専門家、研究者と協議の上、効果的な対策を伝えるとの返答であった。
- ・特別史跡彦根城跡にて、カワウ・シラサギの追い払いができて、滋賀県内の他のエリアへ移動し、新たな被害が発生する可能性がある。

(2) 考 察

滋賀県内でカワウの対策は3ブロックで対応されているが、実施するのは市町となり、対策が様々であり広域での対策が厳しい状況である。

カワウに関しては滋賀県だけでなく、季節的に他府県へ移動する事から

他府県を交えた広域での国の対応も必要と思われる。

カワウとシラサギはねぐらや餌を捕獲する地域で共存することが多く、何れも駆除計画をともに考える必要がある。

カワウは季節的に移動する滋賀県内外の広域にて、シラサギは滋賀県内にて漁業被害、環境被害等が起こらない数にまで広域範囲で駆除計画をし、羽数を減少させることが重要である。

滋賀県内の猟友会に関して、それぞれ個別の団体での駆除計画でなく、滋賀県内全体の駆除計画のもと、他府県も同様に実施していくことが望ましい。

## 政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

夢みらい 戸崎 克司

(2) 実施日：2024/7/10(水)

### 【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

教員及び支援員が不足している

(2) 本市における課題

特別支援教育支援員、その他のサポート支援員及び特別支援教育士の育成強化

### 【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目：「教員不足が続く中でのインクルーシブ教育の方向性について」

(2) 選定地 1：文部科学省

### 【3. 調査結果】

(1) 内 容

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」において、インクルーシブ教育システムについて以下のように定義づけている。

- ・障害のある者と障害のない者がともに学ぶ仕組みであること
- ・障害のある者が教育制度一般（general education system）から排除されないこと
- ・個人に必要な「合理的配慮」が提供されること

インクルーシブ教育システムの構築は、「共生社会」を目指すために最も積極的に取り組むべき課題だとしている。障害の有無にかかわらず、多様な生き方を認め合う社会をつくるためには、次世代を担う子どもたちへの教育が重要となる。

また、特別支援学校高等部と専門学校が連携する取り組みとして、新たな社会的ニーズに応じた専門的職業人材を育成するために、専門学校と高等学校、教育委員会等の行政及び企業が協働で、高・専一貫の教育プログラムを開発するモデルを構築する専門学校の事例がある。

「学校法人西野学園札幌心療福祉専門学校」

「学校法人仙台北学園 仙台リハビリテーション専門学校」

(2) 考 察

本市は教員不足の中、特別支援教育支援員・その他のサポート支援員の役割、多様性を求められる人材に関して重要視しております。

また、より専門性の高い特別支援教育士を必要としているが研修が長期間にわたるため、取得が難しい現状である。

本市において、特別支援教育士は教育委員会に2名在籍している。

さまざまな障害に対する専門知識を用いて、子どもたち一人ひとりの教育的なニーズにあわせた学習計画を立て、適切な指導を行うことが大きな役割となる。学校や教育委員会で勤務しながら、特別支援教育士の免許を取得するのは困難で、新たに取得者を増やすことも厳しい状況である。

文部科学省の担当者の方々に、学校教育において特別支援教育士の重要性及び、特別支援教育支援員の方々も含めて、多様性が求められることを認識していただき、今後の対応をお願いした。